

レビュー研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	Paget 病	
	タイプ	レビュー	
タイトル情報	論文の英語タイトル	<b>Extramammary Paget's disease</b>	
	論文の日本語タイトル		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドライン上での目次名称	P C Q 1 3- 2	
書誌情報	研究デザイン	I. システマティック・レビュー／メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験による III. 非ランダム化比較試験による IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究による） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズによる） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 ( I )	
	Pubmed ID	15713139	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Bjog	
	雑誌 ID		
	巻	112	
	号	3	
	ページ	273-9	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)	
	発行年月	2005 年	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Shepherd V	Clatterbrigde Center
	その他著者 1	Davidson EJ	Countess of Chester Hospital NHS Trust
	その他著者 2	Davies-Humphreys J	同上
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

レビュー研究の6項目	目的	乳房外 Paget 病の臨床像、組織像、治療法、予後因子を明らかにする。
	データソース	Medline
	研究の選択	記載なし
	データ抽出	Medline で、Vulval Paget's、extramammary Paget's、EMPD、vulva AND Paget's and vulva AND EMPD で検索。
	主な結果	<p>発生部位 会陰部、肛門周囲、陰茎、陰囊など</p> <p>治療法 外科療法：最も標準的治療。大きな切除範囲でも再発率は高い(34%)。浸潤癌では非浸潤癌より再発率が高かった(67% vs. 35%)。Radical vulvectomy、radical hemivulvectomy、wide local excision での再発率は、15%、20%、43%であった。切除断端陽性例の再発までの期間は平均で 1.4 年、断端陰性例では 4.4 年。 放射線療法：切除術とのランダム化比較試験はなかった。手術不能例、内科的理由による手術不能例、手術後の再発例では放射線療法が考慮された。手術単独では再発の危険性が高いと判断される場合には術後放射線療法が考慮された。 全身化学療法：手術、放射線療法の適応とならない症例に行われた。</p> <p>予後因子 浸潤癌、脈管侵襲、リンパ節転移、secondary EMPD</p>
	結論	手術療法が標準的治療であるが再発率は約 40%。放射線療法や抗癌剤クリーム、全身化学療法などが試みられている。
	備考	
レビューワーコメント	レビューワー氏名	鹿間 直人
	レビューワーコメント	よくまとまったレビューである。 レベル I 厳密にはシステマティック・レビューではないが、詳細に検討しており、それに準ずるものと評価した。